

認知症を学び、 地域で支えよう

誰にでも起こる可能性のある脳の病気、認知症。認知症であっても安心して暮らし続けられるまちをつくるためには、認知症を正しく理解することが大切です。

今月号では、認知症の症状や予防、認知症の方への接し方などをお知らせします。

認知症とは どういうもの？

わたしたちのあらゆる活動をコントロールしている脳。認知症とは、さまざまな原因で脳の細胞が死んでしまったり、働きが悪くなったりしたため、脳がうまく機能せずに障がいが見れ、日常生活に支障をきたす状態のことです。

認知症の原因となる病気はたくさんありますが、最も多いのは、脳の神経細胞がゆっくりと死んでゆく

『慢性疾患』と呼ばれる病気で、アルツハイマー病などがこれに当たります。

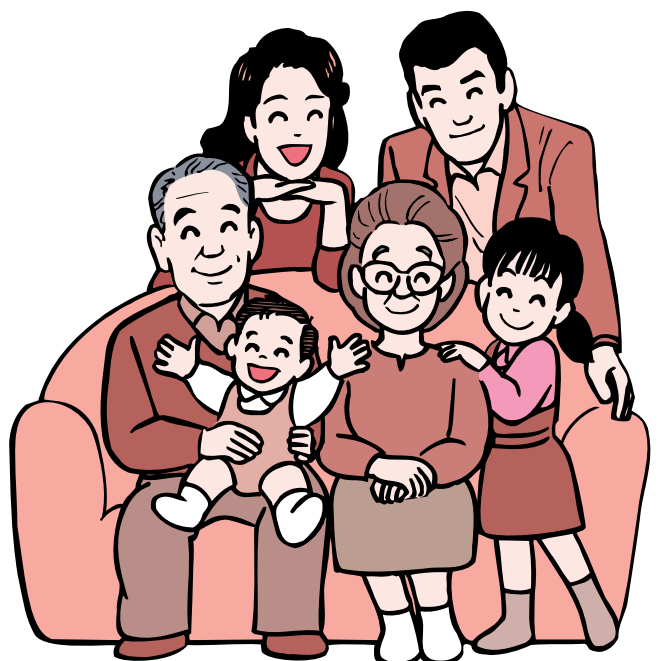
次に多いのが、脳こうそくや脳出血、脳動脈硬化などのため、神経細胞に栄養や酸素が行き渡らずに、その部分の神経細胞が死んだり、神経のネットワークが壊れたりする『脳血管性の疾患』です。

高齢になると、老化現象として物忘れが起きますが、単なる物忘れの場合は、体験したことの内容を忘れることはあっても、体験したこと自

体は思い出します。認知症の場合は、体験したこと自体を忘れます。食事をして何を食べたのか思い出せないのが『物忘れ』、食べたことさえ忘れるのが『認知症』です。

ただし、認知症になっても、突然すべてを忘れるわけではありません。

認知症は、記憶などの知的機能の障がい、感情は発症前と変わりません。忘れっぽくなったことを一番不安に思うのは認知症の方自身ですので、周囲の方は理解して配慮することが大切です。



認知症の症状

〈中核症状と周辺症状〉

認知症の症状は、中核症状とそれによって起こる周辺症状に分けられます。

中核症状は、脳の細胞が壊れることで直接起こる障がい、記憶障がいや見当識障がい、理解・判断力の低下、実行機能の低下などのことを言います。

周辺症状は、うつ状態や妄想のような精神症状、はいかいなど、日常